

平成24年度 徳島県立阿波高等学校 学校評価

重点課題	評価項目	担当	評価指標	活動計画	評価	数値目標				
						D	C	B	A	S
1 学校運営の充実 ①校内各組織の連携を強化して機能的な運営を図り、よりよい学校づくりに努める。 ②家庭や地域、同窓会との連携を図り、地域に信頼される学校づくりに努める。 ③創立90周年記念事業に向け、具体的な取組を推進する。	PTA・同窓会と円滑な連携を図る。	渉外	PTA 総会への参加率が40%以上	担任がホームルームにおいて案内の確実な持ち帰りを徹底するとともに電話連絡などによって参加を依頼する。		～10	11 ～30	31 ～40	41 ～55	56%～
		進路	進路保護者会への参加率が45%以上	進路課から大学の入試動向や本校の生徒の状況等を説明するなどして、進路保護者会のより一層の充実を図るとともに、各学年に参加への働きかけをお願いする。		～24	25 ～39	40 ～49	50 ～64	65%～
	学校の情報を詳しく早く発信する。	情報・視聴覚	ホームページ更新ができる教職員の割合が80%以上	ホームページの構成を検証し、アクセシビリティを確保しつつ職員が情報を発信しやすい環境を構築すると共に、職員のスキルを確保するための研修会を開催する。		～49	50 ～74	75 ～84	85 ～89	90%～
			各部活・同好会の年間更新回数2回以上が40%以上	特に部活動の活動状況についてはより見やすい画面構成になるようサイト全体の再構成を行う。		～10	11 ～30	31 ～40	41 ～55	56%～
	中学校・保護者・地域との連携を取り、阿波高校のアピールに努め、入学希望者の増加を図る。	教務	地域別学校説明会（3会場で開催）への出席者数80名以上（昨年：71名）	6月からホームページ上に会の案内・詳細を載せ、参加を募る。昨年度は直接本校に申し込む形を採ったが、本年度は近隣の中学校に取りまとめをお願いする。		～60	61 ～70	71 ～80	81 ～90	91名～
中学生体験入学（8月に本校で開催）の中学生参加者数350名以上（昨年：328名）	6月からホームページ上に案内・詳細を載せ、参加を募る。中学校にはポスターの掲示も依頼し、参加の動機づけを図る。			～310	311 ～330	331 ～350	351 ～370	371名～		
2 人権教育の推進 ①あらゆる機会を捉えて人権尊重の精神の涵養を図る。 ②差別を見逃さない人権感覚と自他を大切にすることを育てる。	人権意識の高揚を図る。	人権	「人権ホームルームや映画会・意見発表会、講演会など人権に関する活動を通じて、人権意識が高まった」と思う生徒の割合が70%以上	行事・活動において、事前指導や事後指導を取り入れた多面的な活動を行う。		～59	60 ～69	70 ～79	80 ～89	90%～
3 学習指導の改善と確かな学力の向上 ①校内研修の充実や研究授業により、教員の指導スキルの向上に努める。 ②生徒の学習意欲を喚起するとともに、家庭での学習習慣の確立を図る。	研究授業や研究協議、公開授業を実施する。	職員研修	研究授業・協議を6教科以上で実施する。	年に数回、実施週間を設定し、教科の計画表から調整する。		～3	4, 5	6	7	8教科～
			授業評価で説明がわかりやすいと答える生徒の割合が60%以上	前後期に生徒に授業評価アンケートを実施し、その結果を日々の授業力向上に活用してもらう。		～54	55 ～59	60 ～65	66 ～70	71%～
	ICTを活用する授業を研修・実施する。	情報・視聴覚	ICT利用授業を実施した教職員の割合が60%以上	CAI教室の機材更新などICT機器の活用促進のための環境整備に取り組む。		～39	40 ～59	60 ～70	71 ～89	90%～
			ICT活用に関する校内研修会を行う。	パソコンや視聴覚機器等ICTの授業活用を促進させるような事例研究や機器の取扱いなどの研修会を企画・実施する。		0	1	2	3	4回～
	家庭学習時間の確保を図る。	進路	1年の家庭学習時間が2.0時間以上	進路HRや集会等で家庭学習時間確保の重要性を粘り強く伝えていく。また、原則として毎日家庭学習時間調査を行うとともに学習時間集計表を作成し、家庭での学習習慣を確立するように促す。さらに、担任からの声かけをお願いする。		～0.5	0.6 ～1.5	1.6 ～2.5	2.6 ～3.5	3.6時間～
			2年の家庭学習時間が2.5時間以上			～1.0	1.1 ～2.0	2.1 ～3.0	3.1 ～3.5	3.6時間～
			3年の家庭学習時間が3.0時間以上			～1.0	1.1 ～2.5	2.6 ～3.5	3.6 ～4.5	4.6時間～
読書活動の充実を図る。	図書	図書館からの貸出冊数が1人当たり7冊以上（4月～1月）	月や学期の集計で、冊数が低いクラスや学年に働きかけを行う。図書委員の活動をより活発にさせる企画を実施する。		～5.5	5.6 ～6.5	6.6 ～7.5	7.6 ～8.5	8.6冊～	

平成24年度 徳島県立阿波高等学校 学校評価

重点課題	評価項目	担当	評価指標	活動計画	評価	数値目標				
						D	C	B	A	S
4 生徒指導の徹底 ①面接等により生徒一人ひとりの理解に努め、生徒の心に響く生徒指導をする。 ②社会の一員としての自覚の醸成、基本的生活習慣の定着、交通安全教育の推進に努める。	遅刻防止指導の充実を図る。	生徒	遅刻者を1日平均8名以下にする。	毎日の登校指導と学期に1回の遅刻指導週間を活性化し、5分前登校を習慣化させる。		15～	14 ～11	10 ～7	6 ～3	2 ～0人
	悩みを持っていたり、特別支援の必要な生徒への対応を充実させる。	相談	不適応生徒がいないか、年3回以上声を掛け調べる。	部活や担任の先生に、不適応生徒の有無と状況を尋ね、現状を把握するよう努める。		0	1 ～2	3 ～4	5 ～6	7回～
			特別な支援が必要な生徒への理解とよりよい対応につながる研修会を実施する。	職員研修会「発達障害のある生徒の理解と対応」を実施する。		0		1	2	3回～
5 進路指導の充実 ①キャリア教育を推進し、生徒が自己の在り方生き方を考え、主体的に進路を選択できるよう支援する。 ②生徒個々の資質や適性に合った3年間を見通した段階的・系統的な進路指導を行い、第一希望の進路の実現を支援する。	長期休業中の有効活用を推進する。	進路	長期休業中の補習の内容に満足していると答える生徒の割合を75%以上にする。	生徒がより一層意欲的に取り組めるように、補習のカリキュラムの見直しを行う。		～49	50 ～69	70 ～79	80 ～84	85%～
	進路に向けた意識を早くから持たせ、進路実現を図る。		進路検討会をのべ5日以上する。	考查期間中などを利用し、一人ひとりの学習状況や進路希望、適切な指導のあり方等を学年会で検討する。		～3	4	5	6	7日～
			国公立大学合格者数70名以上	センター試験及び国公立二次試験対策として早朝及び放課後補習をより一層充実させる。		～44	45 ～64	65 ～74	75 ～84	85人～
			望ましい進路意識を育むための取り組み(進路講演会、進路HR活動、個人面談等)に満足したとする生徒の割合を80%以上	進路希望調査や生活時間調査で生徒の実態の把握に努め、それに応じた内容になるようにHRや講演の内容を設定する。		～49	50 ～69	70 ～79	80 ～84	85%～
6 特別活動の充実 ①ホームルーム活動や学校行事、生徒会活動、部活動など、望ましい集団活動を通して、豊かな人間性や自主的・実践的態度の育成を図る。 ②ボランティア活動の充実を図り、豊かな心を持つ地域に貢献できる生徒の育成を図る。	学業との両立を図りながら、部活動の充実を図る。	特活	全国・四国レベルの大会に12以上の部が出場する。	日々の活動を充実させて行き、活動の最初と最後には必ず顧問が生徒の状況把握に努める。		～9	10, 11	12, 13	14, 15	16部～
	生徒会活動の活性化を図る。		部活動の部長会を年に3回以上実施する。	学業との両立や集団のマナー向上を目指して、生徒主体で話し合いをさせる。		～1	2	3	4	5回～
			学校祭をはじめとする学校行事の満足度を80%以上にする。	学校行事に主体的に参加できるように、生徒の意見を取り入れ、計画的に行う。		～60	61 ～70	71 ～80	81 ～90	90%～
			ボランティア活動に計3回以上参加する。	地域の奉仕活動への参加を積極的に推進する。		0	1, 2	3	4～6	7回～
7 環境教育の充実 ①校内環境の美化に努め、公共心や奉仕の精神の育成を図る。 ②「新学校版環境 ISO」等環境問題に取り組む態度と実践力の育成を図る。	「地球環境を守る日」を実施する。	環境厚生	年間5回実施する。	5月、6月、10月、12月、2月に学校周辺のゴミ拾い活動を行う。事前に予告し参加者を募る。		0	1～2	3	4～5	6回～
	ゴミを分別する。		各クラスのゴミ分別評価表を回収し、できている割合を80%以上にする。	毎月、各教室におけるゴミ分別評価表を記入することによって、ごみの分別に対する意識を向上させる。		～49	50 ～69	70 ～79	80 ～84	85%～
8 防災教育の推進 ①防災計画を見直し、学校防災体制の整備・充実を図る。	救急処置法を身につける。	職員研修	教職員対象の救急処置の講習会を実施する。	器具を揃え大勢の職員が、実技研修を体験できるよう配慮する。また、研修の内容を充実させられるよう、分かりやすい表現にする。		0		1		2回～
	防災計画について職員間で情報を共有する。	生徒	防災計画についての研修、防災訓練を年に3回以上実施する。	防災計画を周知する機会を作り、職員全体で防災に取り組む意識を高める。また、見直した計画に基づいた防災訓練を実施する。		0	1～2	3	4	5回～